

基幹的農業水利施設の機能保全に係るリスク管理の強化

【戦略的目標 『アジアに輝く北の拠点～開かれた競争力ある北海道の実現』 食料供給力強化への対応】

食料供給力の基礎となる農業水利施設ストックの老朽化が確実に進行しているが、厳しい財政状況を踏まえ、より効率的な施設の機能保全のため、施設の長寿命化対策の普及拡大と計画的な補修・更新・整備を進めるとともに、リスク管理の強化を図ることが重要な課題。

「戦略的取組」
を取り巻く
現状・課題

【基幹的農業水利施設の増加】

・北海道の基幹的農業水利施設は、ダムや頭首工等の施設数で約3.4千カ所、水路延長で約1万kmと、全国の約2割を占めており、これら施設の適切な管理と効率的な保全・更新が必要

【厳しい予算制約と老朽化施設の増加】

・高齢化等を背景に予算的制約が厳しさを増す中、標準耐用年数を超過する施設が増加（H28にはポンプ場の68%、水路の36%）しているため、農業生産に不可欠な機能を確保していけるようリスク管理の強化が大きな課題

【水利施設の管理体制】

・基幹的農業水利施設は、国有財産であり、その管理・運営は、民間団体である土地改良区等が、利用者である農家の費用負担によって行っている。このため、施設の機能診断等の技術的支援や突発事故等に対応した整備体制を進めるとともに、農業者（土地改良区等）と連携し、長寿命化に積極的に取り組むことが必要



具体的
戦略

基幹的農業水利施設について、機能保全に係るリスクを抑えつつ長寿命化を図り、施設のライフサイクルコストの低減を図る

検討項目

【施設管理者への技術的支援】

・基幹的農業水利施設を管理している土地改良区等に対し、維持管理事業の中で経年的な予防保全対策を強化するべく機能診断結果の説明や、それに基づく対策についても情報交換を行うなど、技術的支援を強化

【新規制度の導入】

・平成23年度から、老朽化が進んだ施設の特別監視や、完成後一定の年数を経過した基幹的農業水利施設を対象に、機能発揮の状況や劣化度合等を調査するとともに、必要に応じて機動的な更新工事が可能となる制度を導入し、効果的な制度の運用に取り組む

【体制の強化】

・施設機能診断結果や保全技術高度化対策の成果等を分析・蓄積するとともに、その活用を進める試験研究機関等と連携した新工法の開発など技術向上を図る



施策群

国営かんがい排水事業

施策群の連携機関：北海道、市町村、土地改良区 等

日本再興戦略との対応：安全・便利で経済的な次世代インフラの構築 等